

数学科（数学Ⅱ）学習指導案

日 時	平成 30 年 5 月 24 日（木）第 1 限	指導者	小野 遼太郎	
学 級	普通科 2 年 4 組	教 室	204教室	
単 元	第 4 章 三角関数	教科書	数学Ⅱ（数研出版）	
指導目標	1 公式の利用にとどまらず、自分で証明することで、自分で公式や定理を作り、活用できるようにさせる。 2 物事を多角的な視点で捉えさせ、複数の証明や解答方法を導くことができるようにさせる。	指導計画	第 2 節 加法定理 6 加法定理 …………… 3 時間 （本時はその 2） 7 加法定理の応用 …………… 2 時間 8 三角関数の合成 …………… 2 時間 問題 …………… 1 時間	
主題	加法定理の証明	課題	加法定理の問題（P136練習28）を解く。	
目標	1 既習事項を用いて、加法定理の証明をさせる。 2 一つの定理の証明や問題の解答が複数存在する場合があることを理解させる。			
本時の指導過程	学 習 活 動	時間	指導上の留意事項	評価規準・方法、資料等
	導 入	5	・加法定理が正しく使用できているか確認させる。 ・板書の解説者に要点を押さえて解説させる。	【評価規準】 ○要点を押さえて解説できている。 【評価方法】 ○生徒の発言を確認する。
	展 開	20	・6～7人の班に分かれ、与えられた条件をもとに班員で協力しながら証明を考えさせる。 ・証明に必要な事項を理解できているか確認させる。	・ワークシート ・折り紙 【評価規準】 ○筋道を立てて証明を考えることができている。（数学的な技能） ○証明や解答が複数存在する場合があることを理解している。（数学的な見方や考え方） 【評価方法】 ○机間指導する。
	開	20	・考えた証明を、班の代表者に発表させる。 ・他の班が発表した証明が正しいかどうか考えさせる。 ・その他の証明があるか考えさせる。	【評価規準】 ○正しい証明ができている。（数学的な技能） 【評価方法】 ○生徒の発言を確認する。
	整 理	5	・証明が複数存在することを知り、問題を解く場合にも活用できることを確認させる。	
備 考	理数医療類型 生徒数 38 名（男子 30 名，女子 8 名）			